

平成30年7月2日

常陸太田市議会議長 益子 慎哉 様

常陸太田市議会

議会報告・意見交換会 班代表 益子 慎哉

「常陸太田市議会 議会報告・意見交換会」報告書【常陸太田地区】

1. 日 時

平成30年5月15日（火）午後7時から

2. 開催場所

常陸太田市生涯学習センター 講座室1・2

3. 議会報告・意見交換会対応議員

- ①益子 慎哉（議長）②成井 小太郎（副議長・広報委員長）③深谷 渉（文教民生委員長）
④藤田 謙二（議会運営委員長・文教民生副委員長）⑤高星 勝幸（総務委員長）
⑥木村 郁郎（産業建設委員長）⑦宇野 隆子（文教民生委員）⑧後藤 守（総務委員）
⑨川又 照雄（文教民生委員）⑩茅根 猛（総務委員）⑪諏訪 一則（総務委員）
⑫菊池 勝美（産業建設委員）

4. 参加者数 35人

5. 説明資料

別添 説明資料のとおり

6. 概要（総括）

広報委員長の進行により、出席議員の紹介、議長あいさつの後、議会報告・意見交換会に入った。

議会報告では、はじめに市議会の主な活動報告（議会運営委員長）、続いて常任委員会の平成29年度調査・研究の活動報告（各常任委員長）を行った。

報告に対する質疑では、「地域包括ケアシステム」を当市においても早期に作る必要があるのではないか等の意見が出された。続いて、意見交換会のテーマであるまちづくり（地域コミュニティ等）について資料に基づき説明（文教民生委員長）を行った後、2班に分かれて参加者と意見交換を行った。その後、各班から出された主な意見の発表を行い、今後の議会活動の議論・政策形成につなげていくこととし、最後に広報委員長が閉会に際しお礼を述べ終了した。

7. 意見・提起等

別添 議会報告・意見交換会における質疑応答・意見交換の内容のとおり

平成 30 年度議会報告・意見交換会 議会報告終了後の質疑応答

【常陸太田地区（H30.05.15）】

問 1（質問者） 福祉に関する問題ですが、市報等を拝見すると赤ちゃんのことや子どもを持っている親子さんたちのことが 90% も掲載し、そのほかのことが掲載していない。この資料では高齢化率及び後期高齢化率が 55.3% で人口の半分にもなっているにもかかわらず、お年寄りはどこかにおいやられる。この街の悪い面や暗い面を私はずっと感じている。そういう全体的に、老いも若きもそういう所に、目を配って議員の皆さんはきちんとやっていただきたいと思う。

回答 1（議長） 子育て支援や若者の定住ばかりではなく、高齢化社会についても議会の方でも考えて提案していきたい。

回答 1（文教民生委員長） 高齢化率の問題について誤解されているようだが、高齢化率は 36.2% で、75 歳以上の後期高齢化率は 19.1% という説明です。

問 1-2（質問者） 高齢者というのは何歳からを。

回答 1-2（文教民生委員長） 65 歳からです。

問 1-3（質問者） 高齢化率を算出したのは何歳までをもって算出したんですか。

回答 1-3（文教民生委員長） 総人口に占める割合です。それが 65 歳以上の方が 36.2% です。

問 1-4（質問者） 皆さん自宅で最期を迎えたいとおっしゃっているんですよ。施設ばかり増やすのではなく、自宅へ医者が定期的に来て健康管理をしている。そういうシステムをなぜここは作らないのか。

回答 1-4（文教民生委員長） 先ほど文教民生委員会で説明しました地域包括ケアシステムというのは、自宅に居ながらずっと生活できるような体制を作っていこうというシステムですので、そのシステムを今当市でも作り上げていこうとしている。

問 1-5（質問者） 遅いんですよ。すでに現在そういうことがなされていなくてはならないんですよ。考え方が一世紀遅れているんですよ。

問 2-1（質問者） 今の方の話、十分理解できます。すべてが遅い。女性の意見を尊重しなかったことだと思う。

【常陸太田地区】

平成30年度議会報告・意見交換会 「地域コミュニティ等」について

各班で出されました主な意見（集約）は次のとおりです。

A班

- ・コミュニティを推進している事すら知らなかった。もっと地域の実情に応じ、市民へ制度の説明をしてほしい。
- ・買い物弱者が多い地域であるので、外出支援サービス等を行ってみようとの考えもあるが、送迎中の事故などが心配である。
- ・小沢町では、50歳から75歳代のメンバー40人ほどで通学路の草刈や、耕作放棄地を利用したかぼちゃ栽培などに取り組んでいる。コミュニティの一つの活動とし継続していきたい。

B班

- ・当初は、地域コミュニティは必要ないと思っていたが、将来の地域づくりのことを考えて地域コミュニティの設立に向け進めている。
- ・市社会福祉協議会の支部と公民館と縦割りのため、同じような事業が行われている。地域コミュニティの組織化により横のつながりで情報の共有が図られるのではないか。
- ・町内の人口が多いため、町会活動においてもコミュニティそのものが崩壊している。